

今週末2024年2月17日（土）に汐見台中学校で防災訓練が行われます。

汐見台中学校はG S Iの避難拠点です。参加希望の方は9：30から受付開始

10：00～12：00で以下の5項目に関する訓練が行われます。

①資機材関連説明

ハマッコトイレ説明

ガス式及びガソリン式発電機作動説明

エンジンカッター／油圧ジャッキ

②グラウンド／中庭備蓄庫説明

③アマチュア無線説明

④磯子区災害ボランティアネットワーク 活動説明

⑤避難生活の区割り訓練

参加希望の方は前日まで407号室西のポストに部屋番号と参加人数を書いたメモを入れて下さい。

尚、参加できない・しない方のために、上記に関連した情報を開示します。

①機材関連説明（ハマッコトイレ25分）

汐見台中学校の浜っ子トイレはグランド埋設型災害用トイレ。グランド30cm下にマンホールがあり、震災時は30cmを1時間程度かけて掘り起こし、設置予定です。（防災訓練では未実施）。

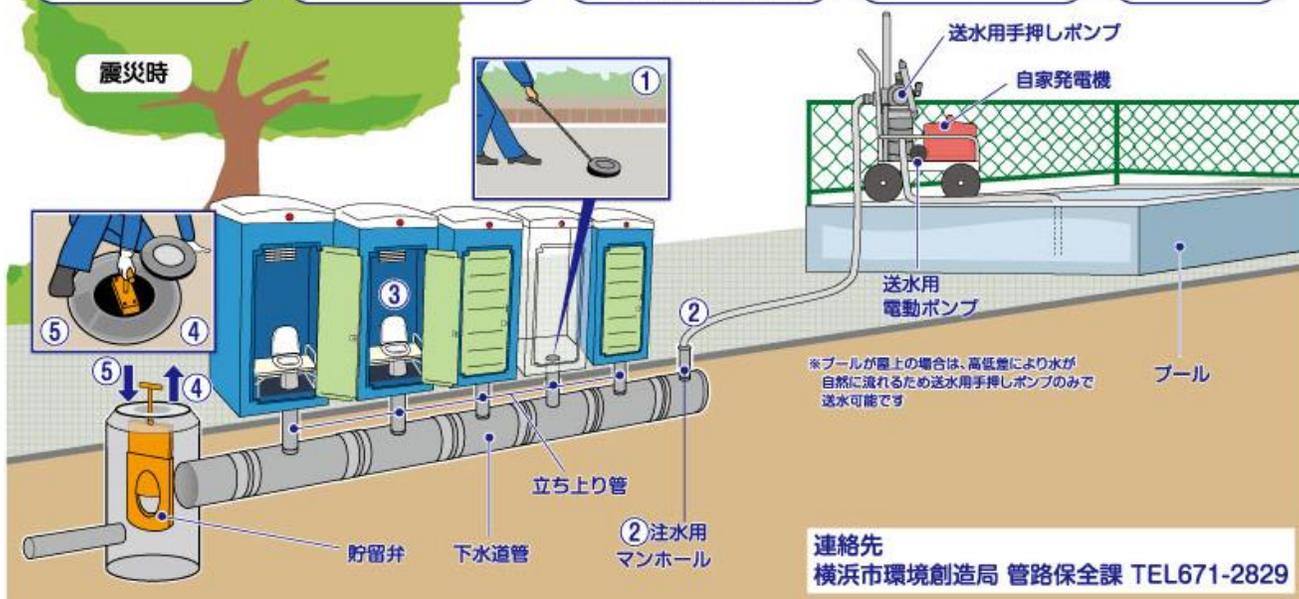
災害時下水直結式仮設トイレ案内

ここには、仮設トイレ用下水道管が設置されています

使用方法

- ①立ち上り管の蓋をはずし、仮設トイレを設置する
※蓋をあげる工具は防災倉庫に保管
- ②注水用マンホールから下水道管に水を貯める
※プール水・水道水を活用/約800ℓ
注水用マンホールから管の半分程度貯まった事を確認
- ③トイレが使用可能になる
必ず、下水道管に水を貯めてから使用
※貯めた水が、トイレからの汚物やペーパーを溶解し、排水しやすくします
- ④約500人使用したら貯留弁をあげ、排水する
※1日1～2回程度/一気に排水
- ⑤下水道管が空になったら貯留弁を閉める

②からの工程を繰り返す



[グランド埋設型災害用トイレ設置方法 - YouTube](#)

震災時にハマッコトイレは使えるの？水の貯蓄はどのくらい必要？

ハマッコトイレは震災時には誰でも使えます。但し、被災者が体育館に避難している可能性が高いため、朝などは行列になる可能性があります。

汐見台中学校のプールですが、ハマッコトイレのために使用しますので、一般の方は使えません。

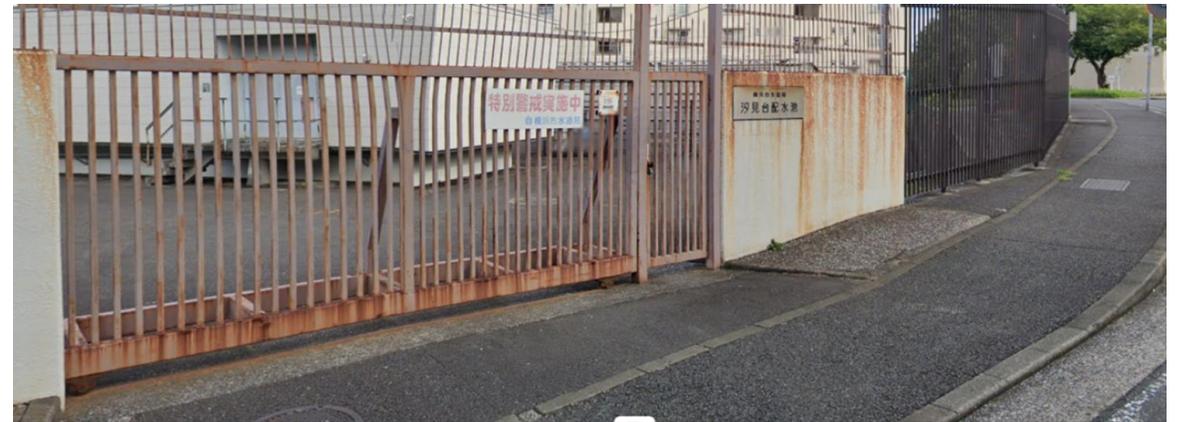
断水の場合に備えて、飲み水確保と各家庭で湯舟などに普段から水を溜める対策などをお願いしています。

水の貯蓄は4日分が目安です。それ以降、右記の拠点で汐見台地区への給水が行われる予定です。

震災後4日目には水道局の人が上り旗を上げて水の供給を開始します。

時間がある時に場所を確認しておいて下さい。

磯子区汐見台3丁目8番地2 汐見台配水池



①資機材関連説明（ガス式及びガソリン式発電機作動説明、エンジンカッター／油圧ジャッキ25分）

この発電機を使用して、地域防災拠点に備蓄している投光機や移動式炊飯器を稼働させるのに使われます。

ガス式



ガソリン式



[0056_20210428.pdf \(yokohama.lg.jp\)](#)

エンジンカッター／油圧ジャッキは、阪神大震災で、自衛隊などの救助活動が手作業だった教訓で設置されました。しかし、エンジンカッターはその必要性が問われ、予算が下りないために、手入れができていないのが実情です。目的は金属を切断できるので、歪んで開かないドア等の切断り利用します。油圧ジャッキは物を持ち上げたり、動かしたり、隙間を広げ被災者の救出を行います。



[0054_20210428.pdf \(yokohama.lg.jp\)](#)



[0055_20210428.pdf \(yokohama.lg.jp\)](#)

② グランド／中庭備蓄庫説明 5 分

中庭備蓄庫には行かず、写真のみの説明です。昔の資料ですが、右記のような備蓄があると考えられます。

震災時には、対象エリアの方には名前の記載で食料・水・生活用品が配給されると説明がありました。

しかし、大規模災害となると岡村や、磯子地区の被災者、磯子駅や屏風ヶ浦の下の道路から高台へ向けて車が避難してくる可能性が高く、高台の汐見台付近で車が身動きできなくなり、被災者が体育館に集中する可能性もあります。

人道的立場からは、被災者優先で備蓄庫が使われると思います。各自で食べ物・飲み物・生活用品の備蓄は行っておきましょう。

地域防災拠点備蓄物資一覧表

区分	品目	数量	備考
食料	主食系	クラッカー 1,000食	
		缶入り保存パン 1,000食	
食料・水	おかゆ	460食	高齢者及び乳幼児用
	スープ	220食	高齢者用
	粉ミルク・ほ乳瓶	19セット	乳児1人あたり1セット(3日分)
	水缶詰	2,000缶	
生活用品	高齢者用紙おむつ	210枚	
	乳幼児用紙おむつ・紙パンツ	1,350枚	
	生理用品	425個	
	トイレトペーパー	192巻	
	移動式炊飯器/ガスかまどセット	1台	小学校…移動式炊飯器 中学校…ガスかまどセット
	毛布	240枚	
	アルミブランケット	240枚	
	組立式仮設トイレ	2基	
	簡易トイレ便座	6基	
	トイレバック	5,000セット	避難者の5回分
	簡易式テント	2基	着替えや授乳スペースの確保のため
	LEDランタン	80台	停電時の照明用
	ラジオ	2台	災害時の情報収集用
	デジタル移動無線延長コード	1セット	情報受伝達を円滑にするため
救護用品	防災電話機(デジタル移動無線)	1台	職員室外側などに設置されたモジュラージャックに差し込むことにより通信可能
	トランシーバー	2台	地域防災拠点内での連絡調整用
	リヤカー	2台	
	グラウンドシート	10枚	
	給水用水槽	1個	
救助用品	松葉杖	5組	
	保温用シート	150枚	
	発電機	6台	ガソリン式発電機5台 ガス式発電機1台 (計6台)
	投光機	5台	
	エンジンカッター	2台	皮手袋、防塵メガネがセット
	油圧ジャッキ	1台	またはガレージジャッキ5台
	掛け矢	2個	

③アマチュア無線説明（トランシーバ取り扱い、デジタル移動無線機、特設公衆電話説明） 10分

アマチュア無線を活用した拠点での情報受伝達訓練です。

情報班からいただいた情報(避難者数ほか)を伝達する訓練を、地域防災拠点と区役所に開設した無線局間で実施します。

訓練ではトランシーバ及び、デジタル移動無線機、特設公衆電話の説明になりますが、トランシーバ及び、デジタル移動無線機は区役所との情報交換が目的で、被災者用ではありません。

[考える防災／横浜市アマチュア無線非常通信協力会磯子区支部 \(kangaerubosai.sakura.ne.jp\)](http://kangaerubosai.sakura.ne.jp)

災害時における通信手段を確保するため、特設公衆電話の事前設置が行われています。

1. 事前設置の考え方

区分	設置対象	主な対象施設	設置台数の考え方
A. 避難所	原則、国民保護法(148条)及び国民保護法施行令(35条)に基づいて都道府県知事が指定した避難場所(学校・公民館等)のうち、各市区町村から設置要望のあった避難所	小中学校 公民館等	施設収容人員100名あたり1台を基本とし、自治体と協議の上決定

現在、汐見台中学校には2台の特設公衆電話があります。こちらは被災者用です。

④磯子区災害ボランティアネットワーク 活動説明10分

磯子区災害ボランティアネットワーク

大規模災害時は、全国から多くのボランティアを受け入れることになります。被災者等からのニーズを的確に把握し、ボランティア活動の支援を主な目的とし、平成18年に設立しました。活動の幅は、個々で異なりますが、それぞれが持つ知識や能力を活かして活躍しています。団体としての主な活動は、地域での防災講話、地域防災拠点の訓練支援、ボランティアセンター設置運営訓練等になります。



ボランティア受入れ訓練の様子



ボランティア受入れ訓練の様子

⑤避難生活の区割り訓練 10分

実際の区割り訓練では、養生テープ3巻き、メジャー1セット、ブルーシート2枚しか用意されていません。

多分、右写真のような、区割りをメジャーで測り、テープで区割りをしてブルーシートを敷く作業だけになると思います。



ブルーシートを用いた区割りの様子



本当の震災では左図のような寝泊りができる設備が必要となります。

現時点では防災訓練ではそこまで考えられてなく、備蓄品としてはありません。段ボールベット等は、震災時に必要に応じて供給されることとなります。

G S I の防災案では、マンションが崩壊しない限り、自宅待機が前提です。